

## 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた課題と取組の状況

## 【特徴(強み)】

1. 県、精神医療圏域、市町単位で自立支援協議会等の医療、福祉、行政等関係機関ともに協議する場がある。
2. 研修会等を通して保健所を中心に各圏域毎に医療、福祉、行政等が、取組みの方向性を共有できている。
3. ピアサポーターの活用について、関係機関が当事者力を活用した取組みの必要性を確認することができている。

課題	課題に解決に向けた取組状況	取組の成果
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の姿を具体化できていない。	圏域コーディネーターである県立保健所と長崎こども・女性・障害者支援センター(精神保健センター部門)職員を中心にワーキンググループを開催し、指標づくりを行っている。	県下の状況の情報共有や精神障害者の生活について改めて協議し、関連する他分野との連携の必要性の再認識ができた。
ピアサポーターの活用が十分に図られていないため、活動の場を確保するための普及啓発が必要である。	長崎こども・女性・障害者支援センター(精神保健センター部門)や保健所、などにおいて、啓発活動を行っている。	今後も啓発活動を行うとともに、取組を検討する必要がある。

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (現時点)※	目標値 (令和元年度末)	達成状況の見込み(評価)
①圏域毎の関係者協議の実施と課題整理	8	8	各圏域において、関係者で協議を行い、課題等の共有を行っている。
②保健所担当者会議、研修会等の開催	4	4	課題や今後の方向性を共有している。
③ピア育成のための研修会	1	1	ピアやサポーター等関係者を含めた技術向上を行えた。

※現時点の値が分かれば記入して下さい。分からない場合は、年度当初の値で構いません。

●指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。